

浮世絵に描かれた江戸・東京の水辺空間における構成要素間相互の関係性について

日本生産工(院) ○田尾 若菜 日比生寛史建築計画研究所 菊池 秀和
日本生産工(院) 山田 悟史 日本生産工 大内 宏友

1. はじめに

浮世絵には、かつての江戸・東京における河川をはじめとする水辺空間が舟運機能を果たすとともに人々の生活用、防水用、親水用など多面的に利用されていたことが描かれている。そして江戸特有の多様な文化を育むと同時に名所と称される美しい景観を生み人々に愛され親しまれてきた。しかし戦後の経済発展に伴い利便性や治水上の施策が強調され、その結果都心における水辺空間は、高速道路やコンクリートの支柱群ビル群などにより遮られ、かつて人々が日常的に体験していた水辺空間における豊かさは失われた。また近年では、都市におけるヒートアイランド現象や砂漠化は深刻な問題として取りざたされている。一方では、人々が余暇や日常の潤いを都心における水辺空間に求めるようになった。日本橋の高速道路地下構想など、全国的に水辺空間の再生に対する活動も活発化してきている。浮世絵に描かれた水辺空間における豊かさは、現代における都市を昇華しこれからの都市空間の在り方を担うひとつの大きなテーマであるといえる。

2. 既往研究のレビュー

これまで、「広重の浮世絵風景画にみる景観分類に関する研究」、「広重の浮世絵風景画に描かれた河川景観の絵図に関する一考察」として、多くの成果が得られているが、江戸・東京についての研究はなされていなかった。



絵図-1 「名所江戸百景」(水道橋駿河台)

そこで「浮世絵に描かれた江戸・東京の水辺空間の空間構成要素について」では広重が描いた「名所江戸百景」を研究対象とし、浮世絵に描かれた要素のうち出現頻度上位要素を明らかにした(図-1)。

さらに個性と多様性に富む浮世絵をKJ法^{*1}を用いて類型化することにより17類型を得、さらにそれらを図式化することにより最終的に水辺を主題とする類型と水辺を空間の一部またはアクセントとしてとらえている類型の二類型に分類することができた。さらに水辺を主題としてとらえている類型の分析より、・観賞用として整備された水辺・寺社のある水辺・河川沿いに建ち並ぶ建築・水上の賑わいという4つの水辺空間の特徴とその要素を抽出し、考察を行った。しかし浮世絵の絵図は複数の要素から構成されていることから、これらの組み合わせとその特徴という視点から分析することが必要であるといえる。

3. 研究の目的

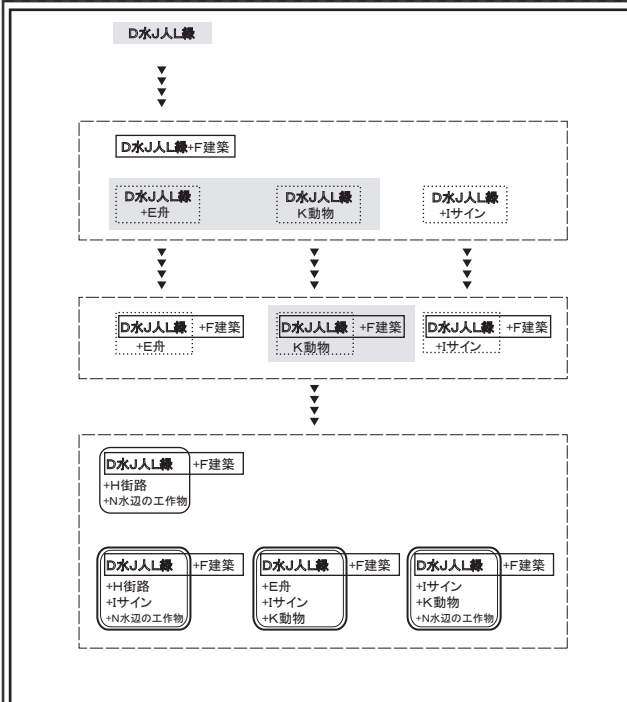
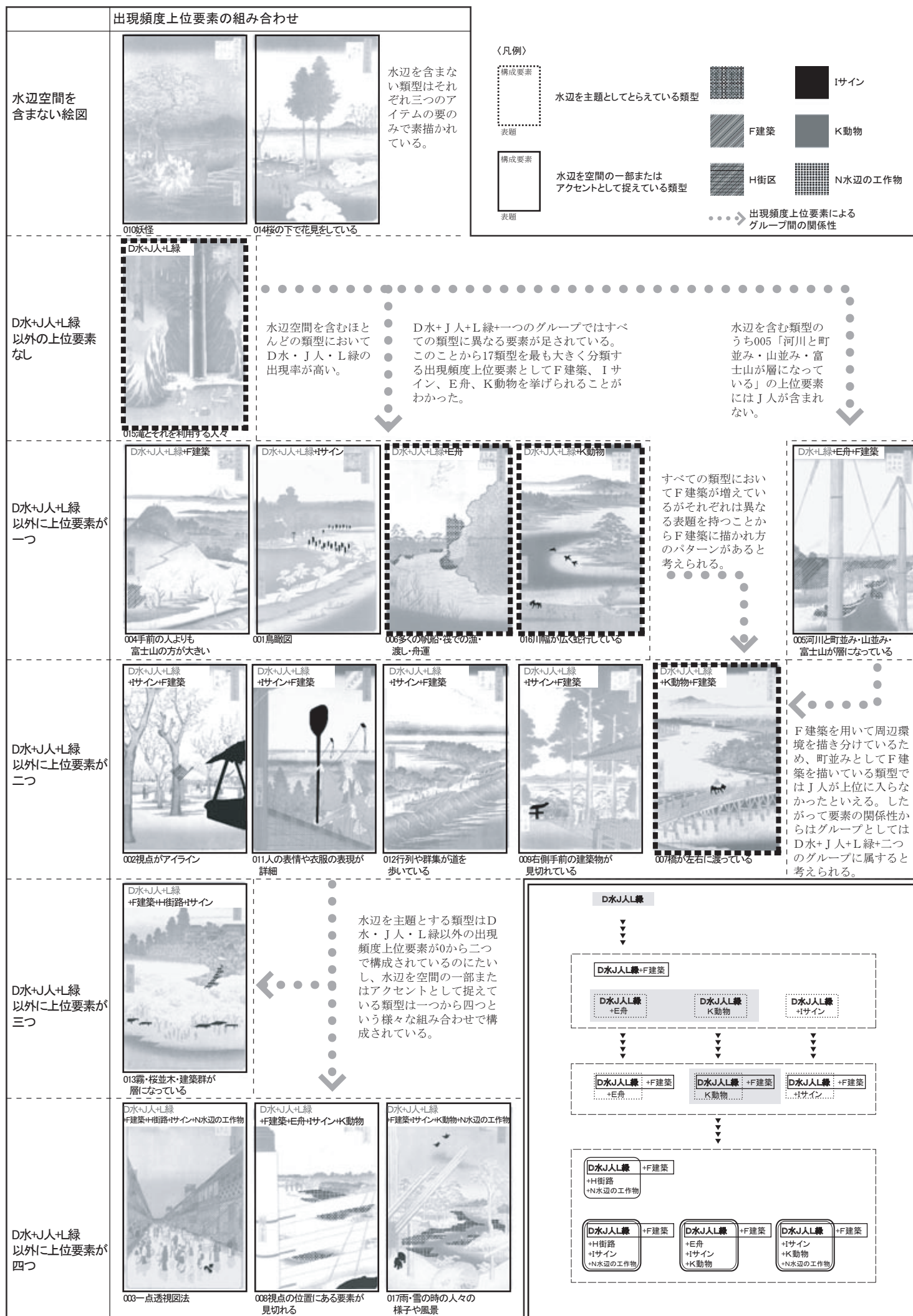
浮世絵の絵図に描かれた江戸・東京の美しい水辺や、人々の生き生きとした姿は現代の都市における水辺空間の再生のための指標の一つになると考えられる。

そこで、本研究は歌川広重が描いた「名所江戸百景」における水辺空間における構成要素間相互の関係性について分析・考察することにより、江戸・東京における水辺空間の豊かさを再生するための有効的な建築・都市計画手法として構築することを目的としている。

Study on the Mutual Relations Between the Component in
the Water Side Space of Edo-Tokyo
Drawn in the Ukiyoe

Wakana TAO , Satoshi YAMADA , Hirotomo OHUCHI

						33		31		40		subtotal		total		rate				33		31		40		subtotal		total		rate	
A.季節	A1春	F.建築	F6屋敷	L.緑	L1山	C.N./U.N.	A	季節	不明	春	不明								K1	馬		0	1	0	1	1	2.33				
	A2夏		F7寺社		B	時間	不明	夕方	不明										K2	魚		0	0	0	0						
	A3秋		F8城		C	天気	晴れ	晴れ	晴れ											K3	竜		0	0	0	0	0				
	A4冬		F9建築群		D1	霧	1	0	0	1	4	9.30	K4	猫		0	0	0	0												
	A5不明		G.橋		D2	海	0	0	0	0			K5	馬		0	0	0	0												
B.時間	B1朝	H.街路	G1石造橋	L5生垣	L4樹	D3	河川	0	1	1	2							K6	犬		0	0	0	0							
	B2日中		G2木の橋		D4	池	0	0	0	0			K7	狐		0	0	0	0												
	B3夕方		G3その他		D5	塚	0	0	0	0			K8	その他		0	0	0	0												
	B4夜		I.サイン	D6		1	0	0	1			L1	山		1	1	0	2	12	27.91											
	B5不明			M.水辺の行為	M1舟こぎ	D7	水溜り	0	0	0	0	0			L2	富士山		0	0	0	0										
C.天気	C1晴れ	J.人物	I1簾	N.水辺の工作物	M2漁 (投網、釣り)	D8	漬	0	0	0	0							L3	森、林		1	1	1	3							
	C2曇り		I2看板		D9	干潟	0	0	0	0									L4	樹		1	1	1	3						
	C3雨		I3家紋		E2	帆船	0	0	0	0	2	4.65	L5	生垣		0	0	1	1												
	C4雪		I4鳥居		E3		0	0	0	0			L6	草、芝		1	1	1	3												
	C5不明		I5門		F2	筏	1	1	0	2			L7	その他		0	0	0	0	1	2.33										
D.水	D1霧	K.動物	J1群衆	O.視点の高さ	M5宴會 (屋形船)	F3	屋台	0	0	0	0	3	6.98	M1	舟こぎ		0	1	0	1											
	D2海		J2女		F4	小屋	1	0	0	1			M2	高松陣、釣川		0	0	0	0												
	D3河川		J3子供		F5	町屋	0	0	1	1			M3	行水		0	0	0	0												
	D4池		J4士		F6	店舗	0	0	0	0			M4	鵜飼		0	0	0	0												
	D5堀		J5農		F7	蔵	0	0	0	0			M5	宴會(屋形船)		0	0	0	0												
E.舟	D6用水路	P.行事	J6町人	※J.人物における	F8	屋敷	0	0	0	0	0			N1	土手		1	0	0	1	2	4.65									
	D7水溜り		J7僧侶、神主		F9	寺社	0	1	0	1			N2	堤防		0	0	0	0												
	D8滝		J8判別不能		F10	城	0	0	0	0			N3	川床		0	0	0	0												
	D9干潟		K1鳥		G1	建築群	0	0	0	0			N4	船着場		1	0	0	1												
	E1帆船		K2魚		G2	石造橋	0	0	0	0	3	6.98	O	視点の高さ	丘の上	アイライン以上	丘の上														
F.建築	E2屋形船	K3竜	P1行事	8.判別不能は、人物と認識できるが特定できない場合である。	G3	木の橋	0	0	0	0			P	行事	舟ひき	0	0														
	E3筏	K4猫			H	その他	1	1	1	3										43											
	F1屋台	K5馬			I	街路	0	0	0	0	0	0.00																			
	F2小屋	K6犬			J2	蔵	0	0	0	0	4	9.30																			
	F3町屋	K7狐			J3	看板	0	0	0	0																					
F4店舗	K8その他	J4			家紋	0	0	0	0																						
F5蔵		J5			鳥居	0	0	1	1	2																					
		J6			門	0	0	0	1	1																					
		J7			火のみ橋	0	0	0	0																						
		J8			ちょうちん	0	0	1	1																						
		J9	群衆	0	1	0	1	11	25.58																						
		J12	女	1	0	1	2																								
		J4	子供	1	0	1	2																								
		J5	士	0	0	1	1																								
		J6	農	0	1	0	1																								
		J7	町人	1	0	0	1																								
		J8	僧侶、神主	0	1	0	1																								
		J9	判別不能	0	1	1	2																								



間の一部またはアクセントとしてとらえている類型」について定量的な分析・考察を行い、以下に整理する。

1)D水+J人+L緑以外の上位要素なし

・名所と呼ばれる水辺空間に最低限必要な要素は人々の存在と樹木・森林のような緑である。

2)D水+J人+L緑以外の上位要素が一つ

- ・Iサインが足された絵図からは水辺空間が様々な行事に彩られていた事がわかる。
- ・F建築が足された類型は水辺の建築が富士山を借景するように作られていた事がわかった。
- ・E舟が足された類型からは人々の日常的な活動の中に水辺空間が入り込んでいた事がわかる。
- ・K動物が足された類型からは水辺や水辺の緑と合わせて人々の鑑賞の対象となっていた事がわかった。

3)D水+J人+L緑以外の上位要素が二つ

一つ足されたグループにF建築が加わったのがこのグループである。F建築が足されることで人々の活動内容や水辺周辺の様子がより詳しく描かれている。水辺空間に作られた建築には店舗や宿のような水辺に集まる人々のために作られたものと、寺社のように水辺に建てられたところに人々が集まってくるものとに分けられる事がわかった。建築の種類によって水辺空間や人々の様子を示す不可欠な要素だが、名所の背景という性格が強いといえる。

4)D水+J人+L緑以外の上位要素が三つ

D水+J人+L緑以外の上位要素が四つ

Hが行くやN水辺の構造物などが加わり、より多くおり広い水辺空間の情報が描かれている。場所性や人々の様子は建築の種類からも把握できるが、要素が増えたことで一つのシーンを切り取るのではなく水辺空間を持つ町並みとして描かれている。

5)水辺を主題としている類型と水辺を空間の一部またはアクセントとしてとらえている類型の比較

水辺を主題としている類型はD水、J人、L緑にゼロから二つの要素のグループに属しているのに対し、水辺を空間の一部またはアクセントとしてとらえている類型は一つから四つのグループに属し、定量的視点からも2類型に分類することができるとわかった。また要素の組み合わせから、水辺空間を主題としている類型は、より明確なワンシーンとして水上または水際の様子を描いているといえる。これに対し水辺を空間の一意部またはアクセントとしてとら

えている類型からは水辺空間が、人々の活動を彩るF建築や祭事・イベントを示すIサイン、L緑とともに穏やかな自然の雰囲気を作るK動物と同様に人々の生活や季節の行事町並みを彩るために必要な要素であることがわかった。

5. まとめ

以上のことから、浮世絵に描かれた江戸東京の水辺空間における出現頻度上位要素を定量的にとらえ、分析考察することにより得られた構成要素間相互の関係性について以下にまとめる。

①K J法より得た17類型ごとに上位要素を抽出することにより水辺空間を含まない010妖怪と014桜の下で花見をしている以外のすべての類型の出現頻度上位要素にD水、J人、L緑が含まれていることがわかった。

②出現率よりD水、J人、L緑以外の上位要素を類型の特徴となる空間構成要素としてE舟、F建築、H街路、Iサイン、K動物を抽出することができた。

③出現頻度上位要素の数と組み合わせを図式化することにより「水辺を主題としている類型」と「水辺を空間の一部またはアクセントとしてとらえている類型」の関係性及び、空間構成要素間の関係性を図-2のようにまとめることができた。

以上本研究では浮世絵に描かれた空間構成要素間相互の関係性に着目し調査・分析を行うことにより、水辺空間の豊かさの再生と街づくり手法にかなする有効な知見を得ることができた。

なお、今後の展開として構成要素の組み合わせと絵図の構成について調査・分析を行う予定である。

<注釈>

*1)K J法

収集し蓄積された情報の中から、当面する問題の解決に必要なものを取り出し、互いに関連のあるものをつなぎ合わせ、整理・統合する手法の一つであり、特に、質的にパラエティに富んだ情報内容の構造の把握に有効な手法である。

<引用文献>

須藤訓平 渡部一二：「広重の描いた『名所江戸百景』にみる水辺空間の構成に関する研究」 日本造園学会誌 ランドスケープ研究 69巻、5号、pp725～730 2006. 5

<既往研究>

田尾若菜 菊池秀和 山田悟史 大内宏友：「浮世絵に描かれた江戸・東京の水辺空間の空間構成要素について」 日本建築学会学術講演概要集711～712, 2007. 09

<参考文献>

- 1) 萩島哲：「風景画と都市景観―水・緑・道・まちなみ―」 理工図書 1996. 2
- 2) 日本建築学会：「建築・都市計画のための調査・分析方法」 井上書院 1991. 11
- 3) 後藤茂樹：「浮世絵大系16―名所江戸百景(1)―」 集英社 1975. 12
- 4) 後藤茂樹：「浮世絵大系17―名所江戸百景(2)―」 集英社 1976. 4
- 5) 坂井猛・出口敦・萩島哲・朴鍾ちよる・菅原辰幸：「広重の浮世絵風景画にみる景観分類に関する研究」 日本建築学会計画系論文集、第461号、pp165 1994. 7
- 6) 舩心治・萩島哲・出口敦・坂井猛・趙世晨：「広重の浮世絵風景画に描かれた河川景観の構成に関する一考察」 日本建築学会計画系論文集、第482号、pp155 1996. 4
- 7) 坂井猛、萩島哲、出口敦、舩心治、日高圭一郎：「浮世絵風景画に描かれた宿場の景観構成に関する考察」 日本建築学会計画系論文集、第509号、pp149 1998. 7